

ボランティアコーディネーター ニュース

支 援

第101号 2019年11月25日

町田市教育委員会

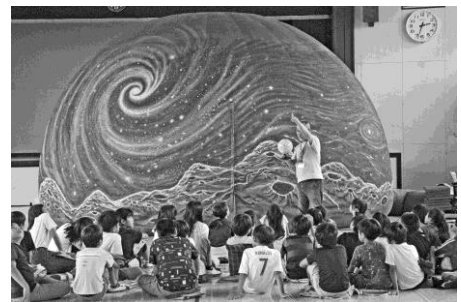
指導課長 金木圭一

発行：町田市学校支援センター

つくし野小学校4年「プラネタリウム月と星」

つくし野小学校では10月7日（月）に4年生が、体育館に設置されたエアードームプラネタリウムで「月と星」を学ぶ授業を受けました。4年生の理科「月と星」の既習内容を確かな理解とするために、プラネタリウムによる星空学習プログラムを展開している事業所が行った授業です。

理科の授業で月や星の特徴や動きについて学んだ多くの児童にとって、それを東京の夜空で実際に確かめるのはなかなか難しいことのようにです。1学級31名の児童が入ったドームの中にはつくし野小学校の校庭で見える夜空が広がり、時刻とともに移り変わっていきます。解説者により、「①月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わること。②空には明るさや色の違う星があること。③星の集まりは1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが位置が変わること」など、授業で学んだことが分かり易く説明されます。解説者の問いかけに答える児童の声は大きく、あたたかも夜の校庭で確かめの授業を受けているかのようにでした。



学年の教員から、「理科の単元『月と星』の学習を、プラネタリウムの鑑賞によって児童の理解を深めるものにしたい」との要望を受けたボランティアコーディネーター（VC）が、紹介された事業所に連絡をとり、実施した授業です。VCは事前の調整だけでなく、当日の準備・連絡・運営などにも大きく関わりました。

2019年度 第3回地区統括VCミーティング

地区統括VCは、地域協力者による学校支援活動の活性化に向けて、地区の取りまとめ、情報共有、地区内の学校支援VCへの連絡・調整・助言・指導などの活動を行います。10月4日（金）に地区統

括VCが一堂に会し、町田市役所2階会議室において、各地区の活動についての情報交換、課題とその解決について協議する、2019年度第3回地区統括VCミーティングを開催いたしました。

今回は情報交換に終わることなく、当面する課題の指摘、解決が急がれる課題についての検討なども行われ、地域学校協働活動が児童・生徒の成長に資する学校教育活動であると学校において位置づけられ、取組まれるものとの認識に立った本質的な論議もされました。



○各校を訪問し、学校により取り組みに大きな差があることが明らかになっている。

○地域協働活動はいろいろやりたいが、教員の負担増を考えるとやれないと考える学校関係者は多い。

○地域連携担当教員がなにをしたらよいか分からぬままの学校はかなり多い。

○成否は学校が、連携活動を児童・生徒の成長に必要な学習活動と位置づけて取組んでいるかによる。

○地区ミーティングでは各校での困難な問題点を出し合い、連携不調・不十分校への助言を行った。

○地域連携担当教員との連絡・連携が大切で、その差が活動の大きな差となっている。

○地区統括VCによる学校への動きかけで、教員の理解が進み、意識が変化してきた例も見られる。

○教員が関わることで学校支援ボランティア活動の幅が広がり、質が高まる。

○小・中学校の活動は内容に違いが大きく、地区で協力・連携して活動できるのかとの考えもある。

○地区内の小中学校のほぼ全てが参加する独自の地域活動に取り組んでいる。

○地区ミーティングが地域諸団体との連携を強める場となっている。

VC活動報告等について

10月23日（水）に水道橋の東京都教職員研修センターで開催された、地域学校協働活動並びに生涯学習等に関わる3つの会議（令和元年度推進委員協議会【第2回統括コーディネーター会議】、令和元年度国庫事業説明会及び都・区市町村生涯学習・社会教育担当者連絡会議、令和元年度地域学校協働活動推進事業関係担当者連絡会議）に、指導課管理係及び学校支援センターの担当者が出席しました。例年と同じく、区市町村担当者向けの研修、情報交換会に引き続いて国庫補助金事業に関する事務説明がありました。今回は、会計検査院等による検査で、適切な会計処理についての指摘・指導を受けたこともあり、さらに適切な会計処理に向けた注意喚起がされました。その中から、国庫補助金会計処理に伴う注意事項及びコーディネーター等の活動日誌作成にあたっての考え方について、紙面を通じお伝えします。適切な事務処理をしていただきますようお願いいたします。

コーディネーター等の活動日誌作成にあたって

記載内容について

業務（活動）内容の記載に当たっては、事業実施要綱に規定されたコーディネーター等業務の考え方を基本とした上で、コーディネーターとしての業務内容や支援内容が明確になるように具体的に、分かりやすく適切に表現されるよう願います。対象となる活動はコーディネート活動であって、「VCによるボランティア活動」、「コーディネートにつながる日常活動」等は対象とはならないことをご理解願います。

VC 活動月報

活動日	活動時間	本人印	備考欄
〇月〇日 (〇)	12:00~16:00	㊟	対象 12:00~15:00
業務内容	○ 「仕事体験」実施に伴う商店街関係者との打ち合せを具体的に記述する × 打ち合せ (→打ち合わせの内容を具体的に記載しなければ×)		
〇月〇日 (〇)	10:00~12:00	㊟	
業務内容	○ 登下校見守りの配置人数調整・連絡及び当番表作成 × 当番表の作成 (「連絡・調整」するコーディネート活動が対象となる)		
〇月〇日 (〇)	14:00~16:00	㊟	
業務内容	○ 出前授業の立会い及び指導者への提言・フィードバックを具体的に記述する × 出前授業立会い (→立会いだけでは×)		
〇月〇日 (〇)	10:00~12:00	㊟	
業務内容	○ 入学式の終了後、保護者に向けて学校応援団の説明をした × VCとして入学式に出席 (→校長等の指示があっても出席だけでは×)		
〇月〇日 (〇)	14:00~15:00	㊟	
業務内容	○ PTA 会合にて学校応援団についての説明をし、協力を依頼 × PTA の会合に出席 (→出席だけでは×)		
〇月〇日 (〇)	13:00~16:00	㊟	
業務内容	○ 芝生ボランティアを組織・調整・説明した × 一緒に芝刈りをした (→作業はボランティアの活動になる)		

コーディネーター等謝金（補助対象経費）の支払い対象とする場合の業務内容の記載については、

◎第三者が見ても容易に理解できる記述となっていること。

◎コーディネーター等の業務として、適切であると判断しやすい記述となっていること。

※ 例えば、「〇〇祭りへの参加」「入学式への出席」「打ち合わせ」のみの記述では、コーディネーター等謝金の支出対象とはなりません。コーディネーターとしてどのような役割をするのか明確に記述すること。

また、やむを得ず自宅で業務する際は、自宅での業務を確認するため主な作業内容を記述し、その際作成した成果物等がある場合は、求めに応じて提示等できるようにしておくこと。

<諸謝金に関する不適切な事例>

× 謝金の二重払い

放課後子ども教室（まちとも）コーディネーター、図書指導員、生活指導補助者などを兼務の際の報告時間の重複

× 学校支援ボランティア活動ではないもの

地域のお祭り、地域諸団体の活動の運営など

各種検定の運営・事務処理など（検定に向けての学習支援のコーディネートは可）

× コーディネートしたボランティア活動（「草刈り」、「見守り」、「学習指導」、「懇親会への参加」等）に自身も参加した場合に対するコーディネーター謝金の支払い

× 業務に従事していない時間に対する謝金支払い（昼食時間、昼休み時間等）

藤の台小学校1年「ユニカール」

藤の台小学校では9月20日（金）に1年生が、町田市ユニカール協会の指導によりユニカール競技を楽しく体験しました。ユニカールは別名「陸のカーリング」と呼ばれ、冬季オリンピック種目のカーリングを屋内の平坦な床の上で行う競技です。基本ルールは氷上カーリングと同じですが、より単純化されており、誰もが楽しめるユニバーサルなカーリングです。

競技の説明を受け、模範試合を観戦した児童たちは、グループに分かれて試合に臨みます。ルールの理解は早



く、誰もが楽しく競技に参加でき、誰もがオリンピック競技を体験することができました。

ユニカール競技を知り、自ら体験もしたVCが、オリパラ教育に適している競技として学校に体験学習を提案し、実現した授業です。VCは企画・提案だけでなく、町田市ユニカール協会との連絡・調整、当日の準備・片付けなどにも大きく関わりました。